



SUN' IN Girls プロジェクト in 持田小
理系女子学生らが図工の授業で、牛乳パックを「家」に変身させます

◆本件のポイント！

- ・本学のダイバーシティ推進室のプロジェクトの一環として、理系女子学生らが小学3年生に授業
- ・図工の授業で「牛乳パック」を使った「家」づくりを行います。

◆本件の概要

島根大学ダイバーシティ推進室では、ダイバーシティの推進に向けた取り組みを行っています。

今回、その活動の一環として、総合理工学部建築デザイン学科の千代章一郎教授のゼミ生（10名）が、SUN' IN Girlsとして、持田小学校3年生の児童46名を対象に、図工の授業支援を行うこととなりました。

授業の題名は「図工 『家』ってなんだろう？牛乳パックが「家」に変身！」です。

この授業では、可能な限り児童の自主性を尊重し、一人一人のイメージと思いを生かし、個人ワークからグループ活動を繰り返す過程で、実践的な態度を身に付けさせることを目的としています。

また、大学生の援助を得ながら、牛乳パックで家を作製することで、実生活の中でのかわりにつながります。

〈授業の概要〉

日時：11月20日（金） 9時40分～11時30分（1・2時間目）

場所：持田小学校 視聴室

クラス：3年1組、3年2組（いずれも23名 計46名）

6グループ編成（1グループあたり7名）

参加学生：総合理工学部建築デザイン学科 千代 章一郎教授のゼミ生 10名

（女子学生6名に加え、サポートとして男子学生4名が加わる予定です。）

〈SUN' IN Girls とは〉

女子学生ネットワークと次世代の女性研究者の育成を目的として、2019年11月に誕生。

島根大学と大学院に所属する理系の女子学生で、構成されています。

「女子中高生」や「学部生」に対し、理系分野の魅力を伝える身近なお姉さんの存在であり、ロールモデルとなることを通して、理系進路・研究キャリアの選択を支援しています。

それ以外にも、地域貢献活動として、小中学生に向けた授業におけるお手伝いのプロジェクトを開始し、教材支援だけでなく授業実践支援を活動として行っています。

▼<https://diversity.shimane-u.ac.jp/project/sun-in-girls/>

◆本件の連絡先

島根大学キャリアセンター 准教授 丸山 実子 TEL：0852-32-9865

【添付資料： あり（4枚） なし】

本時の学習指導計画【1時間目】

▼事前準備（小学校で準備）

牛乳パック・鉛筆・色鉛筆・色ペン・カッターマット・牛乳パック（各自 1L 用 3 箱程度）・（はがしやすい）テープ

▼「児童の学習活動」は主語が児童。 支援者（大学生）の関わりは主語が支援者（大学生）になります。

| | 児童の学習活動 | 支援者（大学生）の関わり | 備考 |
|----|---|---|--|
| 導入 | <p>（10分程度）</p> <p>1 「自分」をつくろう：模型製作の始まり：自分の姿を 1/50 程度（3cm 程度）でつくる。（時間の都合上省略の可能性あり）</p> <p>2 「家」をつくる準備をしよう： ・「自分の手で家をつくれます。機械はありません。」 ・「雨が降ったり、風が拭いたりします。」 ・「地面はくっついていて、動きません。」</p> | <p>必要な資料・道具などの確認、および今後の改善のための記録準備をする。</p> <p>全体進行の管理・ファシリテート・記録</p> <p>児童のワークショップにおける児童の動機付け</p> <p>（10分程度）</p> <p>1 「自分」をつくろう：模型製作の始まり：自分の姿を 1/50 程度（3cm 程度）でつくり、クラスの仲間との考え方の違いが後で分かるようにする。（時間の都合上省略の可能性あり）</p> <p>2 「家」をつくる準備をしよう：原初的な住まいという問題提示。 ・「自分の手で家をつくれます。機械はありません。」 ・「雨が降ったり、風が拭いたりします。」 ・「地面はくっついていて、動きません。」</p> | <p>事前学習：「設計図^{せつけいず}（つくりたい家の絵）」を書こう：つくりたい「家」を絵と文で表現するアンケート（A4判）。2 日目に書いた「家の物語」と比べて、児童自身が達成度を測りやすくする。</p> |
| 展開 | <p>（30分程度）</p> <p>1 牛乳パックに「座」をつくろう： ・1L 牛乳パックの中に、何層でもよいので、いろいろな「床」を自由に張っていく（いったん牛乳パックを縦に裂く）。 ・次に、階段・ハシゴ・ブリッジ。スロープなどでそれらをつなげていく。 「座」が「家」で最も重要な要素になることが分かる。</p> | <p>児童のワークショップにおける児童の製作補助・大学生（男子 3 名）との違いの相互の気づき</p> <p>1 牛乳パックに「座」をつくろう： 建築的観点から、児童の独自視点を見出し児童の意識化させる。ただし、専門的な技術の知識は与えないように注意する。 また、一部の大学生（男子数名）は実際に児童と同じ条件で模型を制作し、後に児童に大学生との考えからの違いを理解できるようにする。</p> | |
| 終末 | <p>（5分程度）</p> <p>1 いろいろな「座」を見くらべてみる：</p> | | <p>休み時間中に写真記録</p> |

本時の学習指導計画【2時間目】

| | 児童の学習活動 | 支援者（大学生）のかかわり | 備考 |
|--------|--|--|---------------|
| 導 入 | | | |
| 展 開 | <p>(30分程度)</p> <p>1 「家」の「間」をつくろう：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1L牛乳パックの表面に、開口部（玄関・扉・窓など）を開けていく。 ・次に、それぞれの児童が必要と思ったキッチン・ベット・机や椅子など、「家」に必ず必要なもの＝人間が生きるために家のなかになくてはならないものと考えて、生活空間をつくる。 <p>「間」が「家」の生活表現の要素になることが分かる。</p> <p>(10分程度)</p> <p>2 「家」の物語をつくろう：つくれなかったものを含め、「3年美術館」を想定して、クラスみんなに自分がつくった「家」の考え方を、絵と文で伝える。</p> | <p>児童のワークショップにおける児童の動機付け・製作補助</p> <p>1 「家」の「間」をつくろう：</p> <p>牛乳パックで生活の「くらし」を作らせる。具体的には、それぞれの児童が必要と思ったキッチン・ベット・机や椅子など。「家」に必ず必要なもの＝人間が生きるために家のなかになくてはならないものを考えさせる。</p> <p>また、作業が細かいために間に合わない児童が出てくることを想定しておく。</p> <p>2 「家」の物語をつくろう：つくれなかったものを含め、「3年美術館」を想定して、クラスみんなに自分がつくった「家」の考え方を、絵と文で伝えるように促す。</p> | |
| 終 末 | <p>(5分程度)</p> <p>1 みんなで意見交換 千代の講評を含む。</p> | <p>意見交換のファシリテート</p> <p>大学生の模型と比べながら、自分たちの考え方の特徴を学ばせる。</p> <p>千代先生からの講評をする。</p> | 成果物を pdf 化する。 |

はじめに：「設計図（つくりたい家の絵）」を書こう（A4用紙）

くみ なまえ

1L^{ぎゅうにゅう}牛乳パックが家になるとしたら？どんな暮らしになるでしょうか？絵日記^{えにっき}にしてみましょう。

終わりに：「家」の物語をつくろう（A4用紙）

くみ なまえ

「家」に変身したみんなの1L牛乳パックの暮らしを絵日記にすると？
